

レジリエントな空間と観光：世界遺産エリアの防災計画



【中野キャンパス】人文社会学部 観光経営学科 教授

狩野 朋子 Kano Tomoko

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：建築・防災計画・レジリエンス・住民ワークショップ・フィールドワーク・観光まちづくり

研究の概要

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

SDGs 目標 15：陸の豊かさを守ろう

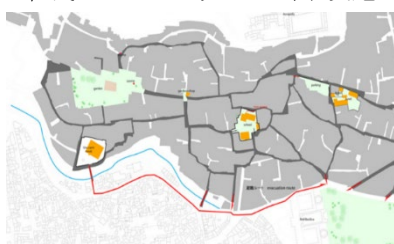
世界文化遺産や歴史的都市、伝統的な建築群、集落などを対象に、レジリエントな空間と観光に関する研究をおこなっている。近年、地震や火災のほか、気候変動の影響による自然災害により世界遺産を含む歴史的なまちも被災している。一方で、これらの遺産は、今日までに様々な災害を乗り越え、人々のよりどころとして地域社会を支え続けてきた。

こうした視点から、歴史的な都市やまちがもつ空間的・社会的特性を生かした防災・減災のあり方を検討し、レジリエントな地域社会の構築に向けた防災計画の提案や住民参加型ワークショップなどをおこなっている。

また 2025 年には、旧軍事施設を有する孤島を対象に、平和をテーマとした観光施設へ転用する空間デザインを国際芸術祭に提案して、離島観光への貢献を通じて、研究成果の社会還元にも取り組んでいる。



住民ワークショップの企画・実施



世界遺産における防災広場の提案



台湾国際芸術祭 Matsu Biennial 2025 “Letters from Matsu”（招聘作品）



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

世界各地の都市や建築の調査に加え、日本、トルコ、ネパール、中国、台湾など国内外の被災地でフィールドワークをおこなってきた。これらの知見をもとに、政府・自治体・大学と連携し、住民参加型ワークショップを通じた防災意識の向上や、歴史的空間と地域コミュニティの特性を生かした減災・防災計画提案をおこなっている。

研究成果は海外メディアや国際会議、書籍等で発表され、住民主体の防災計画の推進と実践に寄与している。古いまちや歴史的都市（観光地を含む）を対象に、調査、ワークショップの実施、観光まちづくりの計画と空間計画まで一体的におこなう、連携・協力が可能である。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【研究実績】

- ・ 科研費（基盤研究(C)）「世界遺産エリアにおける公共空間の防災計画」
- ・ 二国間交流事業共同研究「イスタンブール歴史地区の防災強化に向けた共助体制構築と IT ツールの効果的活用実証」
- ・ 科研費（基盤研究(B)）「世界遺産と防災：アジアにおけるヘリテージツーリズムの持続的発展のために」